

# 日本 YWCA 東日本大震災被災者支援活動報告 —女性と子どもの安全と安心のために—

日本YWCAは平和・人権・健康・持続可能な環境の諸課題に取り組む女性による国際NGOとして、女性と子どもたちに寄り添った、安全と安心が守られる被災者支援を中長期的な視野に立って取り組んでいます。

2011年3月11日の東日本大震災による津波、そして東京電力福島第一原発事故。日本YWCAは翌12日より情報収集、被災者支援のための募金、緊急支援活動を開始しました。

2011年4月3日「日本YWCA被災者支援プロジェクト」を設置し、中長期支援活動スタートして現在に至っています。以下、ご報告いたします。

## 日本 YWCA 被災者支援プロジェクト

### 目的

3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震・津波・原発事故による被災者、ことに女性と子どもたちのニーズに応え、国内外のYWCAおよび他団体と協働しながら敏速に動くために、「日本YWCA被災者支援プロジェクト」を設置する。

女性と子どもの安全と安心のために」をキーワードとして、中長期支援に取り組む。

### 期間

第1期 2011年4月～2012年3月 / 第2期 2012年4月～2013年3月  
その後については、支援状況をみながら検討

2011年3月11日

東北地方太平洋沖地震・津波・  
東京電力福島第一原発事故

3月12日・13日

情報収集

3月14日

国内外 YWCA へ  
支援の呼びかけ

- ・被災者支援募金
- ・物資の送付
- ・緊急要請行動



柏崎刈羽原発・浜岡原発の即時停止を求める

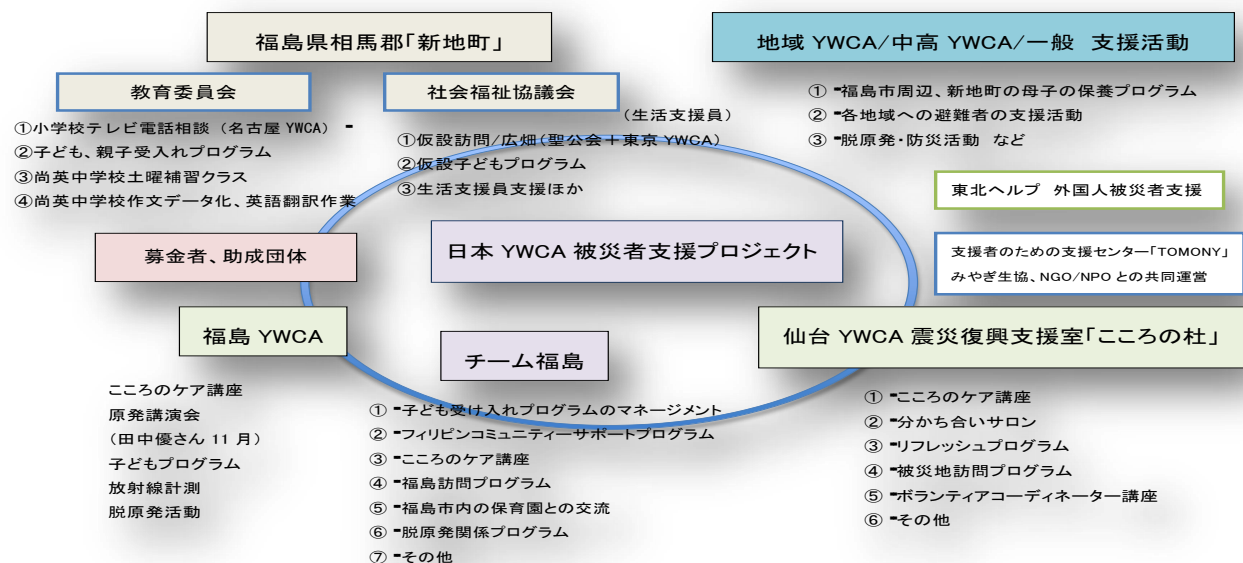
4月3日

運営委員会でプロジェクトの設置

4月8日

プロジェクト発足

現地調査・ネットワークづくり  
支援活動をスタート



## 物資支援

	カウンターパート	物資支援内容
3月中旬～4月中旬 地域YWCAからの 物資支援	✦東北教区被災者支援センター	子ども用紙おむつ、粉ミルク、哺乳瓶、哺乳瓶の乳首、哺乳瓶消毒液、離乳食、おしり拭きシート、生理用品
	✦岩手県釜石市災害救援本部 ✦宮城県名取市災害救援本部	カレールー、チョコレート
4月下旬 韓国YWCAからの 物資支援	✦キリスト教保育連盟加盟	1.2リットル×21,600本(2,400ケース) 1園に360本
	✦日本聖公会東京教区支援対策本部 ✦NPO法人日本エコツーリズムセンター RQ市民被害救援センター東北本部	43,200食(1,800ケース)



## 他言語での情報発信

英語・タガログ語・ベトナム語で、東京電力福島第一原発事故および放射能に関する情報を配信しました。〔3月～4月〕

## ボランティア派遣

カウンターパートの仙台キリスト教連合被災者支援ネットワーク（東北ヘルプ）事務局へボランティアを派遣しました。〔4月～8月のべ14名〕

## セカンドハウスプログラム

### 被災者受け入れのための住居支援

被災地から遠方への避難希望と近く安全な場所への避難希望を受けて、地域YWCAが紹介する住居・家庭に、福島県在住の乳幼児・子どもをもつ家族、高齢者、障がい者、40歳以下の単身女性、外国の方々を対象に、家族単位、子どもだけのグループなどでの利用を受け入れています。

全国の地域YWCAを通して家主の方より住宅を無償もしくは安価での提供を受け、日本YWCAが移動交通費・家賃・水道光熱費等の必要経費を負担して、住宅を提供しています。

日本YWCA被災者支援募金は、地域YWCAを通して、被災されたご家族のために用いられました。

	2011年度	2012年度
夏	札幌・東京・新潟・横浜・新潟・ 名古屋・神戸・呉・沖縄YWCA 12家族 36名	函館・東京・横浜・名古屋・神戸・ 松山YWCA 13家族 46名
冬	東京・横浜・名古屋・京都・ 大阪・神戸・松山YWCA 9グループ 36名	
春	東京・横浜・名古屋・京都・ 神戸・熊本&福岡YWCA 12家族 35名	

## 保養（リフレッシュ）プログラム

### ■ 心と身体の保養

被災による大きなストレスを抱えている子どもやお母さんたちに、被災地を離れ、キャンプや観光等の楽しい時間の中で、心と身体をリフレッシュしてもらうプログラムを、全国の地域YWCAが実施しています。

	2011年度	2012年度
夏	札幌・福島・東京・京都・大阪・神戸・福岡・日本YWCA のべ146名の利用者	札幌・函館・福島・東京・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・呉・福岡・熊本・日本YWCA のべ303名の利用者
冬	札幌&函館・広島・福島&日本YWCA のべ83名の利用者	
春	東京、静岡、京都、大阪、神戸YWCA のべ100名の利用者	

未だ福島市および近郊では子どもたちの室外の活動などが規制されています。このような不自由な環境で子どももおとなも大きなストレスを抱えたままです。

**福島からの声「水遊びがしたい。外遊びがしたい。息抜きがしたい。」**  
**福島から避難している声「お友達と会いたい。」**

その声に寄り添い、「ひとりではない」ことを伝えるために、YWCAの会員は、中高YWCAの生徒たちや地域のボランティアの協力を得ながらこれまでに29の保養（リフレッシュ）プログラムを実施しました。2012年夏の実施は次のとおりです。



### “支援”から“連帯”へ 2012年夏の保養（リフレッシュ）プログラム

- 札幌YWCA 『北の大地ですごく夏休みin 札幌』
- 函館YWCA 『北の大地ですごく夏休みin 函館』
- 東京YWCA 『新地っ子の夏休み2012』
- 静岡YWCA 『夏休み 親子わくわくピクニック』
- 名古屋YWCA 『名古屋いりゃーせツアー』
- 京都YWCA 『京都であそぶ2週間』（小学生向け）  
『プチ学習塾 in Kyoto』（中高生向け）
- 大阪YWCA 『夏キャンプに行こうよ！大阪わいわいスティプログラム』
- 神戸YWCA 『日韓国際ユース・ピースキャンプ』
- 呉・広島YWCA 『広島と瀬戸内の海ですごく夏休み』
- 福岡YWCA 『ほっと一息 ママと行く九州のんびりプログラム』
- 熊本YWCA 『福島と水俣を結ぶレインボープロジェクト』



カヌー・乗馬・ハイキング・  
蟬探し・昆虫探し・魚釣り・  
磯遊び・水遊び・・・  
バーベキュー・流しそうめん・  
スイカ割り・・・  
キャンプファイヤー・・・  
そして観光や買い物





親子でいっしょに楽しむ日と  
おとなと子どもが別行動の日をもうけました。

こどもの前では語れないおとなたちの思い。  
心の中に押し込めていた思い。  
ひとりでじっと我慢していた思い。  
そんな思いをおもいきり語ってもらいました。

中高生たちには  
補習授業の時間もありました。



核と放射能の  
恐ろしさも学  
びました。

### 利用者の感想より（抜粋）

- ・子どもの楽しそうな笑顔を見られたのが幸せでした。
- ・涙を流してくれる程仲良くなって遊んでもらい、子どもから離れて過ごすこともできて助かりました。
- ・久しぶりに日焼けをした顔を見ました。
- ・優しくしてくれて嬉しかったです。
- ・ボランティアさんがつきっきりで助かりました。
- ・震災後ずっと、川に近寄れなかったので、子どももおもいきり水あそびや魚とりなど、子どもらしい姿が見られてとてもうれしく思いました。
- ・みどりにさわれたことがうれしかったです。
- ・これほどの大勢の方々が福島に心を寄せていただき、これを忘れないで、出来るだけ元気ががんばりたいと思いました。
- ・こんなに福島のことを応援していただいていることを、子どもたちに伝えていきたいと思いません。私も心に少し余裕ができました。
- ・子どもだけではなく、母親もゆっくりさせていただきました。

## 仙台/福島でのこころのケア活動

### ■こころのケア 2本柱 ～被災者と支援者へのこころのケア～

- ①仙台市・福島市を中心に、被災された女性や子ども、高齢の方へのこころのケア
- ②支援するボランティアへのこころのケア

今回の地震・津波・放射能汚染による被災地は  
広範囲に及んでいます。  
刻々と変化する状況を踏まえながら、ゆっくり  
丁寧に思いを聴きながら、寄りそった活動を大  
切にしています。



自分も被災者であることを自覚する

人とつながることで  
「エンパワー」される

「自分」を大事にする。  
自分に余裕があれば人を大事にすることができる

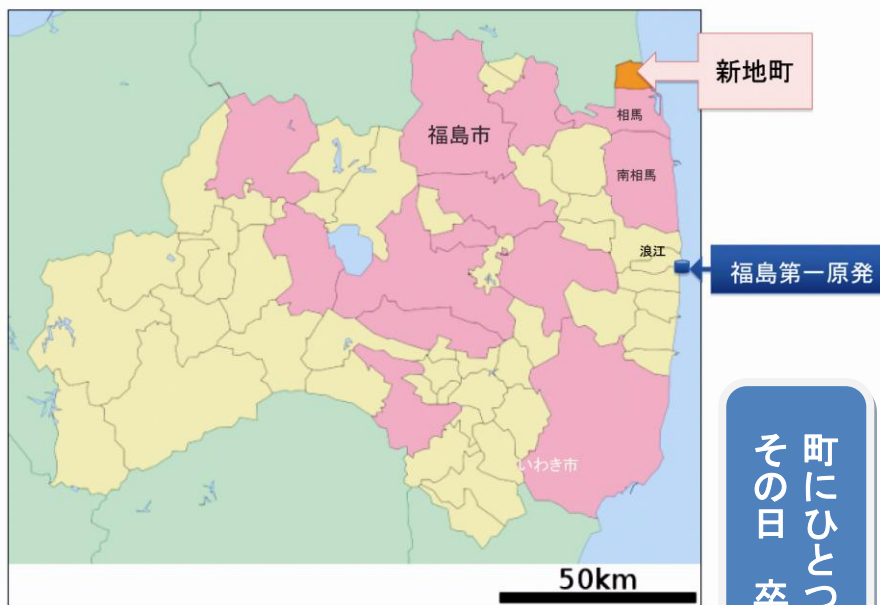


### こころのケア 被災地の人々のリフレッシュ弘前バスツアー

弘前市の協力を得て、宮城と福島の人びとが、  
津波や放射線被害の苦しみを  
語り合い、分かち合い、  
そして・・・  
思い切り笑って、楽しんだ  
笑顔のバスツアー！



## 津波被害 / 福島県相馬郡新地町との出会い



町の自慢だった海。

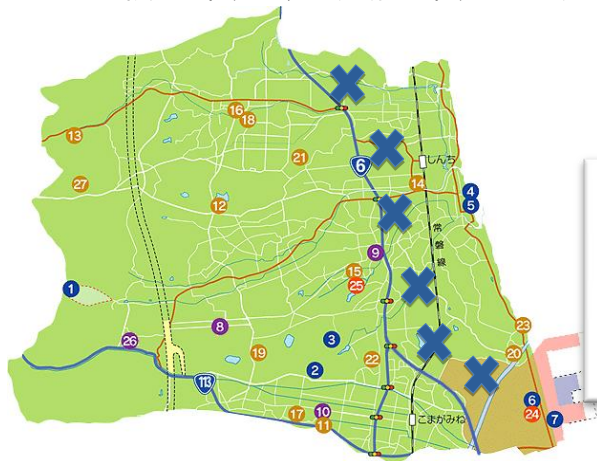
黄色い建物は夏に海水浴に来る方のための  
民宿だった。

その向こうが海。

前にはたくさんの家が建っていました。  
波のあとは何もかもなくなりました。

町にひとつだけある中学校は、  
その日卒業式でした。

- 新地町
- ・ 総面積 46.35㎡
  - ・ 被災面積 9㎡ (総面積の約20%)
  - ・ 総人口 8,172人
  - ・ 被災範囲人口 4,666人 (総人口の57.1%)
  - ・ 総世帯数 2,461戸
  - ・ 被災世帯数 1,400戸 (総世帯数の56.9%)



### 「新地町災害ボランティアセンター」

「災害ボランティア活動支援プロジェクト 会議」と提携

- ・ 企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織。
- ・ 2005年1月より中央共同募金会に設置。
- ・ 災害時には多様な機関・組織・関係者などが協働・協力して被災者支援にあたり、被災者の声に耳を傾けながら被災者中心・地元主体の支援となるよう、ネットワークを最大限に生かして支援にあたっている。

### 福島県新地町「災害ボランティアセンター」活動支援

YWCAは「新地町災害ボランティアセンター」の運営協力の要請を受け、ボランティアコーディネーターを派遣しました。 4月～8月 31名(延べ40名) 2011年8月29日に派遣終了

### 新地町の人々との出会いが増えていきました

家は無事だったけれど、  
生活が何もかも変わってしまった  
お年寄りを訪問

助けたり、助けられたり・・・

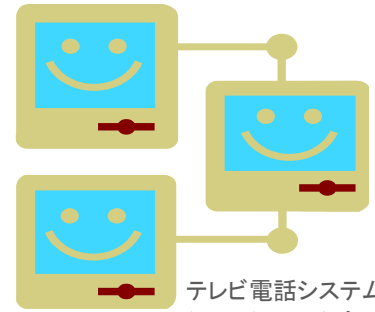


仮設住宅に住む人たちとの  
交流イベント

## 新地町 テレビ電話による子どもたちへの心のケア

2011年6月14日新地町の子どもたちの心のケアを目的に、『テレビ電話相談』がスタートしました。

子ども向け・おとな向けテレビ電話相談、夏休み中は先生方とのテレビ電話ミーティングを通して、各学校との信頼関係を築いていきました。



テレビ電話システムの提供  
シスコシステム合同会社

テレビ電話相談の実績(2012年8月末現在)

相談件数 123件 / のべ人数 185人

### 設置箇所

新地町3小学校、名古屋YWCA、  
新地町教育委員会、文部科学省(計6台)  
活用

小学校側の担当は養護教諭。  
文部科学省には専門家も参加。  
子どもたちへの傾聴および関係者による  
スカイプ会議。

難しいケースがあった場合のフォロー等  
については養護教諭、スクールカウン  
セラーと連携する。

2012年7月には、新地町でワークショップを開催。



- ✦児童向け「心とからだを自分で守る セルフディフェンス」
- ✦教員向け「エンパワメントにつながるコミュニケーションとは」
- ✦一般向け「子どもの気持ちがわかる会話術～テレビ電話相談についての情報交換」

## 新地町立尚英中学校との出会い

### ■ダンボール箱から手書きの作文が・・・

津波被害にあってわずか3ヶ月後、  
尚英中学校の生徒たちは「その日」のことを思い出して作文を  
書きました。



YWCAは、ボランティア約60人によって、中学生256人の震災体験記の手書き作文のデータ入力を行いました。  
さらに、2012年3月に卒業した3年生全員分をボランティアによって英語翻訳し、卒業式で配布されています。  
その他、海外から新地町支援をされた方々にも贈られています。

現在、旧2年生3年生の体験記の英語翻訳がボランティアによって終了し、この震災体験を世界へ語り  
継いでいくために、YWCAで日本語・英語対訳版の冊子を作成中です。



## 新地町立尚英中学校とのつながり

### ■ 学習支援・・・

尚英中学校の補習授業に、ボランティアの先生を派遣しました。

2012年9月より、新たな学習支援活動「テラ(TERRA)小屋」がスタートしました。



新地町立尚英中学校

### 出会いの声

YWCAの支援は他の団体の支援と明らかに違っていました。

毎月、誰かが新地町を訪問し、教育委員会、社会福祉協議会、町の人のお話を丁寧に聴き、私たちが本当に必要なこと、一回きりで終わらないような支援を続けてくれている。これからもっと外部の支援団体は撤退していきます。何もなくなった時に、大きな被害を受けたこの町は、次の将来が見えない。形を変えても、これからもYWCAの皆さんには新地町と関わっていただき、津波被害の記憶が他地域の人たちから消えないようにしてほしい。

(元新地町教育委員会課長、現総務課課長 菅野勝則さん)



日本YWCA 学習支援活動



### 11月 テラ (TERRA) 小屋

日時: 2012年 11月17日(土)  
午前10時30分~12時20分、午後1時30分~3時  
ところ: 新地町立尚英中学校 視聴覚室(2階)  
(住所: 新地町尚英小学校種地40-1)

持ち物: 聞きたい科目の教科書、参考書、筆記用具など  
(英語、数学、国語、理科)

参加費: 無料 対象: 中学生、高校生



こんにちは! YWCAです。11月でテラ小屋は3回目になります。各教科の講師も揃ってききました。それぞれの教科でわからない、もっとゆとり説明を聞きたい、勉強よりも雑談していることがあるので話を聞いてほしいなあ。『土曜日にちょっと「テラ小屋」をのぞいてみてください』。待っています。

\*今回は翌日(18日)午後にかわいいうべんダンを作り講習があります。かわいいうべんダンのチラシを見てね!

申込み  
10月14日「水」まで  
期前「申込み」を学校に提出してください。  
問い合わせ  
新地町教育委員会  
0244-62-4477

主催: 財団法人日本YWCA 被災者支援プロジェクト 協力: 新地町教育委員会

### 出会いの声

支援がいつまで続くのか? 不安。  
一方、地域全体が元気になることも必要。  
もともと無いもの、足りなかった部分に力を貸して欲しい。  
この地域として子どもに今まで教えることができなかったことを底上げしたい。  
良い子はどんどん新地の外にでていく。  
大学にいったそのまま帰ってこない。  
外でやっていける力をつけてやりたい。  
あちこちで問題が発生しているから、人が必要です。担任がつぶれてしまう。  
子どもたちの人間関係の力が必要です。

(新地高校(および元駒ヶ嶺小学校)養護教諭 増子栄子さん)



### 出会いの声

YWCAの人が来ると聞くと気持ちがうきうきして、楽しくなります。いつも、話をたくさん聞いてくださってありがとう。  
仮設とか被災した町民の支援は、これからは私たち町民がしっかりと行かなければなりません。でも、ようやく笑えるようになりました。  
しんどいこと、疲れたことがあった時、YWCAの人に話をするとほっとします。  
だから、これからも来て、私たちを支えてくださいね。

(仮設住宅生活支援員 目黒静子さん、菅野一子さん)



## 福島のマイノリティー支援

### ■ 福島移住女性支援ネットワーク



福島市内在住のフィリピン女性コミュニティー「ハクカマイ」の震災後の経済と生活の自立をサポートしています。

- ・英会話教室
- ・プレスクール
- ・セミナー（入管法、放射能）
- ・保養プログラム情報
- ・国際フェスティバル など



## 新しい活動スペース「カーロふくしま」

### ■ 福島市に活動スペースを開設

- 市民の活動の場として無料開放
- 行政とのタイアップによる避難／再就職支援の場として
- 母と子を支える心のケアの場として
- 正しい放射能情報を得る場として



町を愛して復興する



正しい放射能情報を提供する

## 日本YWCAの被災者支援活動 中長期支援「ふくしま」との連帯

### なぜ「ふくしま」なのか？

東京電力福島第一原発事故は日本の歴史上にない最悪の人災です。

女性団体として、大きな精神的・物理的・身体的被害を受けている「女性や子ども」を見過ごせません。

また、放射能被害が「ふくしま」という地域の問題にされようとしていること、放射能被害に精神論で打ち勝とうとしていること、国策如何によっては今後、放射能被害に対する救援活動に際して否定的な世論となっていくかも知れないことに対して危惧しています。

YWCAは1970年から「『核』否定の思想」に立ち、被爆国として核兵器とともに原子力発電所に反対してきましたが、私たちの運動は力およばず、結果、日本中に50余機の原発が建設されました。このような反省も込め、YWCAは「ふくしま」との連帯を続けていきます。

中長期支援には、まだまだ資金が必要です。

YWCAは、3.11のときに生まれた子どもたちが少なくとも20歳になるまで支援を続けるよう力を尽くしたいと思います。引続きのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 募金のお振り込み先

郵便振替 00170-7-23723

財団法人日本YWCA

通信欄に「東日本大震災被災者支援募金」とご記入ください。